

Fig. 1 「くるくるまわる しかけえほん あそびましょ」1) の表紙



Fig. 2 表紙を開いた最初のページ



Fig. 3 ダイアルを回すと絵が変わる様子 (時系列を時計回りに配置)



Fig. 4 "Le Petit Prince cherche un ami"3) の表紙



Fig. 5 レバーを動かし画面が転換する途中

口絵解説

「画像からくり」 第33回 回転円板付きの絵本

33 Picture Books with Rotating Disks

桑山哲郎

穴を開けたページに別な絵を組み合わせたしかけ絵本は、数多く見つけることができる。子供だましという印象を持つ方も多いだろうが、私は特に優れた「画像からくり」だと考えている。今回は、回転円板を組み込み、見事な効果を上げている穴開き絵本を2冊取り上げる。

Fig. 1 は. いかにも小さな子供が喜びそうな絵本「くるくるまわる しかけえほん あそびましょ」¹⁾ である. 平積みになっていたこの絵本を手にし、表紙の右端の窓に見える,下向き矢印が描かれているダイアルを動かし円板を回転してみた. すると白い紙の上には, 黄色, 赤, 青の帯が絵筆を替えて次々に描かれ,最後は白紙に戻ってしまった. どんな原理でこのような画像の変化が作り出されるのかを,私はすぐには理解できず表紙を開いた.

Fig. 2 は表紙を開いた最初のページである. ここには,以下の言葉が書かれていた「ねこさんが かいた. ねこさんがけした. かいて けして かいて けして……」. ダイアルを回すとこの言葉の通りの光景が目の前に作り出された. A,B,Cと文字が書かれた後に黒板消しが表れて文字が消され、元の何も書かれていない黒板に戻ってしまう. 手で動かしているのは,たしかに印刷された1枚の紙なのだが,まるでディスプレイの様に,表示を消す動作が行われている印象を持った. まさに「画像からくり」である. 私たちの目は,網膜上に生じた光の強度分布から目の前に広がる世界を推定しているのだが,穴の開いた絵本のページと,すぐ下に配置された回転円板の組み合わせが,想像を超える変化を作り出しているのである.

この変化の様子を言葉で説明するのは困難なので、円板の回転により生じる変化を Fig. 3 にまとめてみた。円板には切り欠きがあり、絵本の手前の面、切り欠きのある回転円板の一部、更にその奥に配置された画像が組み合わされてこの変化が作り出されている。このしくみを理解するためには、何回も円板を回転する必要があった。この絵本の作者 Maureen Roffey はイギリス在住のイラストレーターで、数多く

の絵本を手掛けているが、同種の絵本としては 2003 年に同時の出版された「くるくるまわる しかけえほん たんじょうびおめでとう」²⁾ があるということが分かった。調べてみたが、英語の原作も見つけることができず、また絶版になっていて新刊は入手困難になっている。このような優れたしかけ絵本は、ぜひ広く知られ、続編を期待したいと願う次第である

回転円板がページ全体に広がっている絵本はいくつかあるが、表紙がダイナミックに変貌する絵本を次に紹介する. Fig. 4 は、フランス語の "Le Petit Prince cherche un ami" というタイトルの絵本³⁾ である。邦訳では「星の王子様」というタイトルが著名であるが、表紙の中央に大きな丸い窓が開けられ、表紙の下側には操作レバーが配置されている.

Fig. 5 は、レバーを操作ストロークの終わり近くまで動かし、画面転換が終了する直前の状態である。星の王子様を描いた図が切り替わる様子が分かることと思う。円板は中心角60°の6つの領域に切り分けられていて、映画手法の一つ「ワイプ」という画面転換手法で切り替わる。切り替えは何回も往復して行うことができ、楽しめる。この様なしかけ絵本については、私はこの1冊しかもっていない。回転円板を組み込んだしかけ絵本については、更に新しいアイデアを盛り込むことができると思うので、今後の発展に期待したい。

参考文献

- 1) モーリン・ロフィー (Maureen Roffey): 作・絵, 平山許江: 訳, 「くるくるまわる しかけえほん あそびましょ」, 世界文化社 (2003)
- 2) モーリン・ロフィー (Maureen Roffey): 作・絵, 平山許江, 西本かおる: 訳, 「くるくるまわる しかけえほん たんじょうびおめでとう」, 世界文化社 (2003).
- 3) サン・テグジュペリ (Antoine de Saint-Exupéry) 原作, "Le Petit Prince cherche un ami", Fleurus, Paris (2014).